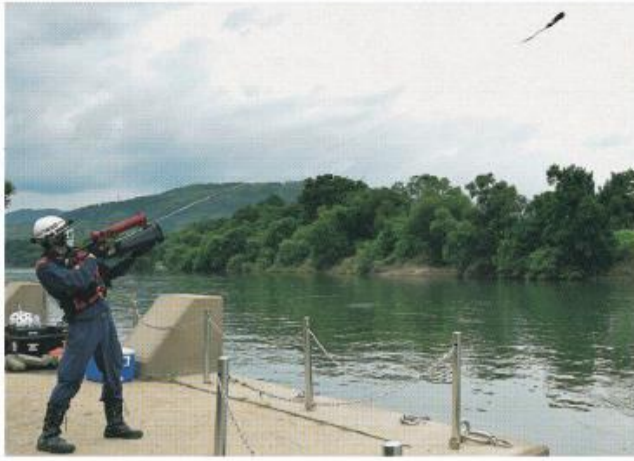


夏に向け水難救助の技磨け

空気式救命索発射銃を発射する隊員



夏に発生しやすい水難事故に備えるため、消防本部が6月14日～30日、宇治川御幸橋付近で水難救助訓練を行いました。同訓練は、水難現場にお



水難者に見立てた人形を救助する隊員たち

消防本部 宇治川御幸橋付近で訓練

ける連携や救助活動の技術を向上させることを目的に毎年実施しています。訓練では、約40kgの重さがある人形を水難者に見立て、上流から人が流されていくと想定。隊員たちは3人1組で乗り込んだ2艇の救命ボートで捜索を開始。発見すると、水難者に向かってボートを走らせ、スピードを落としながらそっと近づいて手際よく救出していました。また、遠方にいる水難者にロープや浮き輪を渡すための空気式救命索発射銃の使用方法についても確認。隊員たちはさまざまな場合を想定し、救助の流れなどを確認しながら訓練に励んでいました。

事故防止に足元ピカッ

日暮れ時や夜間における高齢者の交通事故を防止しようと、地域包括支援センターの職員が施設利用者らの靴に反射材を貼り付ける活動を行っています。

この活動は、市内に4カ所ある高齢者の暮らしを支援する地域包括支援センター（ほっとあんしんネット）、八幡警察署、市が連携して実施。同センター職員が高齢者宅を訪問したり、高齢者が施設を来訪する際に反射材を貼付しています。

支援センター 高齢者の靴に反射材

6月21日には、ほっとあんしんネット「梨の里」にデイケアで訪れた利用者の靴に、センター職員が反射材を貼付。また、啓発チラシを使って反射材以外の交通事故防止対策なども説明し、利用者は熱心に耳を傾けていました。

八幡警察署交通課の明尾晋平課長は「夜間は反射材の着用など目立つ工夫をして、道路を渡るときは必ず横断歩道を渡ってください」と話し、高齢者の交通事故防止を訴えていました。



反射材を靴に貼り付けるセンター職員

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

園児どろんこ田植え体験

6月17日、有都こども園の4、5歳児37人が、内里蜻蛉尻の田んぼで田植えを体験しました。

同体験は、稲の苗植えから収穫までを通じて園児たちに食べ物大切さを知ってもらおうと、地元農家の協力を得て毎年実施しています。

はじめに、園児たちは農家の人に実際の苗を見せてもらい、いつも食べているお米がどのように作られるのかを勉強。苗が成長して稲になり、その実がお米になるなどの説明を熱心に聞き入っていました。

有都こども園37人 内里蜻蛉尻で

た。その後、先生と手をつないで田んぼに入ると、園児たちは「ぬるぬるで気持ちいい」と大はしゃぎ。みんなが横一列に並ぶと、苗を2、3本ずつ手に取り、ロープの目印に沿って丁寧に苗植え。最初は先生に植え方を聞いていた園児も、どんどん上手になっていき、どろんこになりながらも手際よく苗を植えていました。

内田早咲ちゃん(6)は「田んぼの中はぬるぬるして、楽しかった」と話していました。



かわらぎき たもつ 河原崎 保さん

今月のこの人 スポーツとともに人生歩む

スポーツの振興に顕著な功績を残したとして、令和3年度公益財団法人京都府スポーツ協会表彰の三色旗功労賞を受賞された河原崎さん。「関係者、関係団体のご協力、ご支援のおかげです」と、感謝の思いを口にします。

平成30年には創設50周年を迎えた八幡市スポーツ協会。河原崎さんは早くから記念事業プロジェクトチームを発足させ、女子レスリングの吉田沙保里さんを迎えて講演会を開催するなど、同協会の発展に尽力されてきました。

また、会長在任期間中には、就学前の子ども対象のキッズ教室を開講。「幼児期は元気に遊

んで多様な動きを身につける大切な時期」と「走る・跳ぶ・投げる」などの体を動かす遊びに取り組んでいて、今もスタッフとして携わります。「人生100年時代。生涯スポーツを通じて楽しみながら、心身ともに健康寿命を延ばしましょう」と、これからもスポーツとともに人生を歩みます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体等を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。か、秘書広報課へお問合せください。

△プロフィール▽
平成12年から八幡市体育協会(現・八幡市スポーツ協会)の理事、副会長を歴任した後、平成24年から令和2年まで会長を務める。